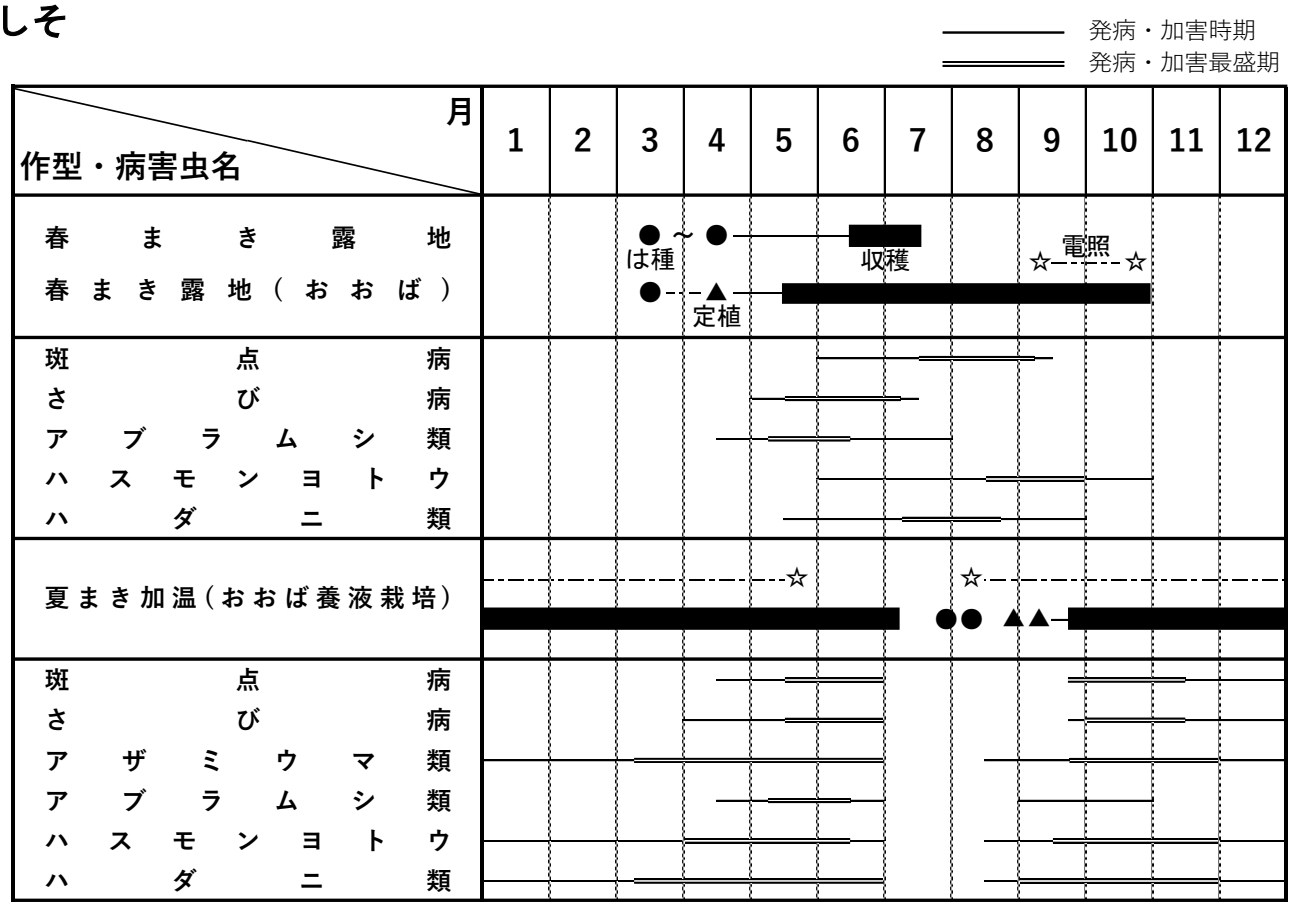
しそ



斑点病

留意事項

1 気温20℃以上で多湿時に発生が多い。

2 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。

3 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

4 キノンドー水和剤40、ダコニール1000は、水産動植物に強い影響を与える恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

防除方法

1 排水を良好にする。

2 初発生時に、下記の薬剤を株元散布する。

・ダコニール1000 ＜Ｍ５＞【株枯症　1000倍　前日／4回】

・キノンドー水和剤40 ＜Ｍ１＞【1000倍　前日／4回】

3 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アフェットフロアブル ≪７≫【2000倍　3日／2回】

・アミスター20フロアブル ≪１１≫【2000倍　前日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・エコショット ＜ＢＭ２＞【2000倍　前日／－】

さび病

留意事項

1 5～6月に発生が多い。

2 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。

3 QoI剤≪１１≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 連作を避ける。

2 被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。

3 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アミスター20フロアブル ≪１１≫【2000倍　前日／2回】

・オンリーワンフロアブル ＜３＞【4000倍　21日／2回】

・サンリット水和剤 ＜３＞【5000倍　前日／3回】

アザミウマ類

留意事項

1 スピノエース顆粒水和剤は、希釈倍数を間違えないよう注意する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【4000倍　前日／2回】

・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞【しそ科葉菜類　10000倍　3日／3回】

アブラムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞【3000倍　3日／2回】

・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【4000倍　前日／2回】

・ウララDF ＜２９＞【4000倍　3日／2回】

・アドマイヤーフロアブル 劇 ＜４Ａ＞【4000倍　3日／3回】

ハスモンヨトウ

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アファーム乳剤 ＜６＞【2000倍　7日／2回】
・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【4000倍　前日／2回】
・カスケード乳剤 ＜１５＞【しそ科葉菜類（除バジル）　4000倍　3日／2回】
・プレオフロアブル ＜ＵＮ＞【1000倍　7日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ハダニ類

留意事項

1 ミヤコカブリダニ、または、チリカブリダニを利用する場合は発生初期に放飼する。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 施設栽培では、ミヤコカブリダニ（スパイカルEX等）または、チリカブリダニ（スパイデックス等）を放飼する。

・スパイカルEX ＜－(生)＞
【野菜類　100～1250ml／10a（約2000～25000頭）　発生初期／－】
・スパイデックス ＜－(生)＞
【野菜類（施設栽培）　100～300ml／10a（約2000～6000頭）　発生初期／－】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アファーム乳剤 ＜６＞【2000倍　7日／2回】
・スターマイトフロアブル ＜２５Ａ＞【2000倍　3日／1回】
・コロマイト乳剤 ＜６＞【2000倍　前日／2回】
・マイトコーネフロアブル ＜２０Ｄ＞
【しそ科葉菜類（除えごま（葉））　1500倍　3日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。